

南小松島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○児童が他者との関わりを通して、学ぶことの楽しさや考えを聞き合うことよ
さを実感できるようにする。
○学習の目的や意図に応じた「問い」を持ち、課題の解決に向けて自分の思い
や考えを多様な方法で表現・発信できる児童を育てる。

校長

高井 賢二

学力向上推進員

吉田 志保①特

【各校の取組状況の把握について】

校内研修やメンター等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的な計算や漢字等について、具体的な目標をもって意欲的に学ぶ習慣が つきつつある。 ●既習の知識と関連づけて、文章を読 んだり書いたりすることに課題が見られ、 学力差がある。	・習得した知識を既習の知識と関連付 け、他の学習場面で活用することができ る。 ・語彙数を増やし、正確に読む・書く・話 すことができる。	・朝のスキルタイムや授業の導入部等 で、復習や既習内容の発展問題を取り 入れた課題を与え、継続して行う。 ・課題の取り組み時間や点数を設定し、 意欲的に取り組めるようにする。	・語彙の理解や文章の読み取りに 課題が見られる児童もおり、学力 差が見られる。 ・言葉の理解や語彙の定着を意識 した指導を行っていく。 ・朝の読書や日常的な言語活動を通 して、読書量の確保と語彙を増 やす取り組みを継続・充実させて いく。	・朝活トレーニングやスキルタイムの継 続により、基礎的な計算力の向上が見ら れた。さらに、時間を意識して課題に集 中して取り組む児童も増えてきた。 ・音読指導や漢字小テストの継続によ り、基礎基本の定着や学習への意欲の向 上が見られた。 ・読み聞かせの継続により、内容を読み 取る力の育成にもつながっている。	・朝の活動や授業導入の時間を有効 に活用し、基礎的・基本的な学習内 容のさらなる定着を図る。 ・語彙力の向上に課題が見られるた め、読書や音読(家庭との連携)、 振り返りの習慣化を継続して行う。 日常の言語活動の充実を通して、す べての児童が学びを次につなげられ るよう支援を強化する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○これまでの経験から、自分の考えを意 欲的に表現できる児童が多い。 ●目的や意図に応じて、自分の考えを 明確にしたり、複数の考えから新しい考 えを創造したりすることに課題がある。	・「問い」に対する思考の見通しをもち、 課題の解決に向けて取り組む中で、自 分の考えを持ち、深めることができる。 ・根拠や理由をあげて、自分の考えを多 様な方法で表現・発信することができる。	・目的を共有した上で、ペア学習やグ ループ学習の機会を効果的に設定す る。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用し た発表や話し合い活動をさせる。 ・児童の発言や発表の内容に応じ、他者 からの問い返しや質問の時間を設け、児 童の考えを深めさせる。	・授業の中で自分の考えを伝えよ うとする姿は増えてきているが、 理由や根拠を明確にして説明する ことは課題が見られる。 ・児童の意見を積極的に取り入れ ながら、言葉の意味や使い方を確 認し合い、語彙を増やすことで、 表現力の向上を図っていく。	・学級人数の多さを強みとし、多様 な意見に触れることで、発言が苦手 な児童にとっても考えを広げる機会 となっている。 ・自分の考えを共有する場や問い返 しの時間を設けることで、発表者・ 聞き手ともに自分の考えをふり返 り、深めようとする姿が見られるよ うになった。	・授業中や日常の会話を通して、相手や場 に応じた声の大きさや話し方、敬語の使 い方など、適切な言語表現を意識でき るよう指導を充実させる。 ・語彙力の向上に向けて、言い換え表 現や語彙の使い分けを日常的に指導し、 自然に使える力の育成を目指す。 ・学習内容を自分事として捉えられるよ う、児童の興味・関心を踏まえた課題 設定の工夫を図る必要がある。 ・友達の意見を認め合い、最後まで聞 くことができるよう、共感的傾聴を大 切にした集団づくりを進める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分が興味のある内容や身近な事柄 について、一人一台端末を活用して、意 欲的に学ぶことができる。 ●他者の意見を傾聴して理解したり、自 ら「問い」を見出して粘り強く探求し たりすることに課題がある。	・学習課題に対して必要感や目的・相手 意識をもって楽しみながら取り組む。 ・他者の考えを知的好奇心を高めて聞 くことで、探求意欲を高めたり、自分 の課題を見出したりすることができる。	・一人一台端末(学習アプリやインター ネット等)や学校図書館等を活用して、 児童自身が自分に合った学習方法を 選択して学べる環境を整える。 ・成果を共有したり、発表(評価をもら う)したりする場を工夫するなど、具 体的な目標をもって学び、学習に対 する達成感を味わうことができるよ うにする。	・学習に前向きに取り組もうとす る姿が見られるようになったが、 継続して取り組む力には差が見ら れるため、習慣化が課題である。 ・朝の活動の時間や朝の会で学習 の成果物を紹介し合う場面を設定 するなど、他者との関わりを通し て意欲的に学習する態度を育てて いく。	・ペア読書や地域の方との交流学習を通 して、相手意識をもち、やりとりのよ さを感じながら活動する姿が見られ た。 ・友達の意見を参考にしながら前向き に課題に取り組み、自分の考えや理 由を発表することができるようになって きた。 ・タブレットを活用し、目的に応じた キーワードを考えて情報を検索する姿 も見られた。	・ペア読書など他者と関わる活動を 継続し、学習への意欲や目的意識の 向上を図る。 ・1分間スピーチなど自分の考えや 成果を伝える機会を設け、表現力の 向上を図る。 ・児童の興味関心を生かした学習活 動や読書活動を充実させ、主体的 に学ぶ態度と読書習慣の定着を目指 す。